

旭川のポロメムとポンメムと④

前回、大正八年の五万分一図で、松浦武四郎が記録したポロメム(poro-mem)大きい方の・古川↓松浦の表記は、ポロメムは「亀川」であることを確認した。今回の掲載地図は、明治二十二年頃の『上川市街地区画図』(旭川市史第一巻所収)で、不用文字等を削除した上で、新たにアイヌ語地名等を□に記したものである。

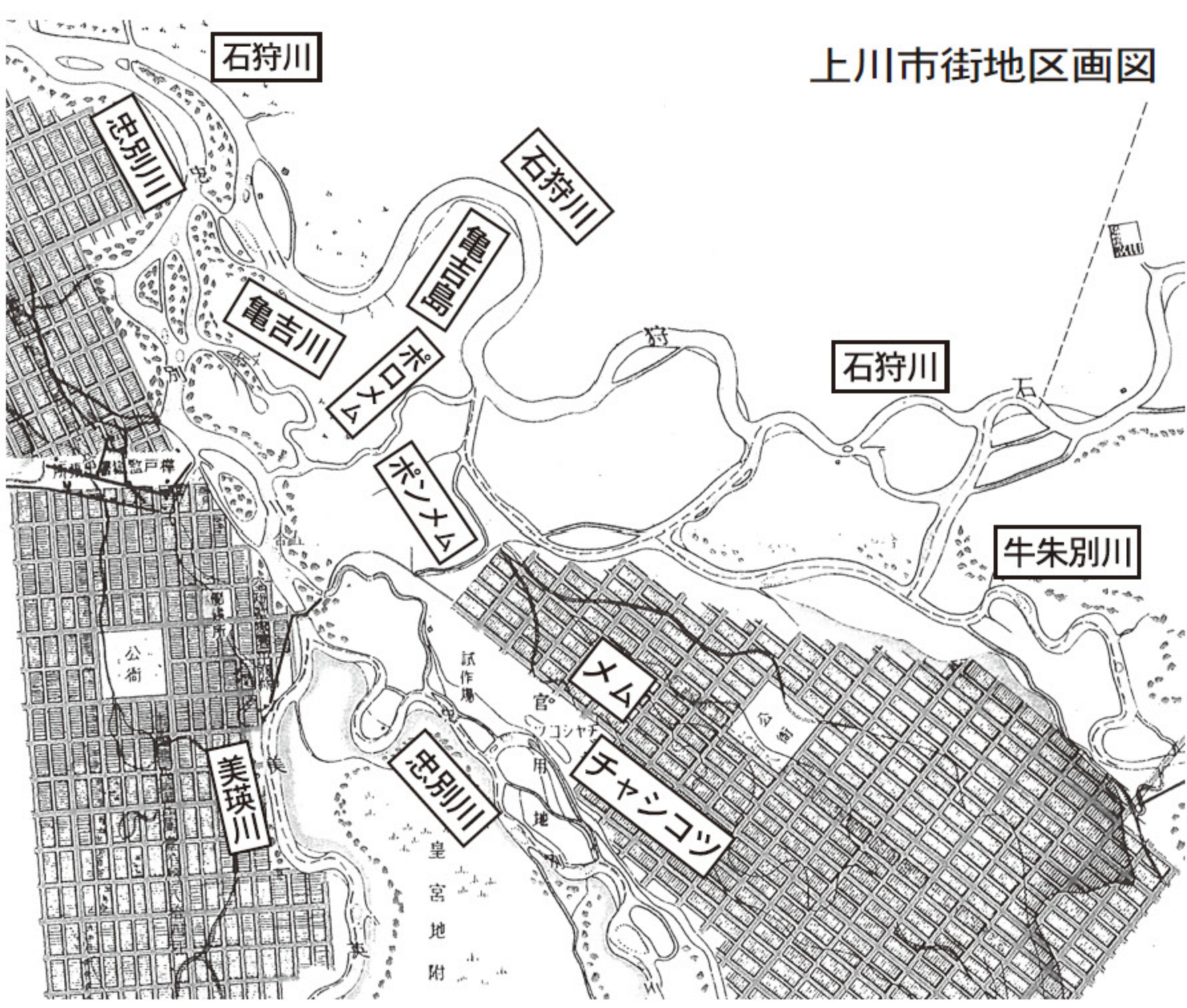
右の地図が書かれた明治二十三年に、旭川を訪れた永田方正は、掲載地図のポロメムとポンメム、そして松浦武四郎が記録した「メム」について次のように記述している。

*ポロメム(poro-mem 大池)「メム」は石狩川の旧流(か)進して「註」集まって「池」となりたるもの。
*ポンメム(pon-mem 小池)→同右

断章 旭川のアイヌ語地名研究

152

高橋 基



*メム(mem 池)→チャシコツの上にある。永田方正は、ポロメムもポンメムも石狩川の旧流と把握しながらも、水流が無いためか、あくまでもメム(mem)湧き水のある泉池)としている。

なお、松浦武四郎より五十年前に旭川を通過した近藤重蔵は、『石狩川筋図』で、ポロメムを「古川」と記録していることを追記しておきたい。

さて、掲載地図の「メム」について、松浦武四郎は、上川の鮭鱒漁について、公刊さ

れた『石狩日誌』で、次のように述べている。

(五月)廿七日、早起。解纜(註)船出する。七八丁にてメム。此所人家五軒。

クウチンコロ、シユンコトイ、シリアイノカントキ婆、アイランケ婆。メムとは屈曲たる小流の湧出する所を云也。この辺の老婆何れも駿犬五六疋を飼けるが、其故を問ふに、鮭・鱒等此川に溯るや、夷人は、括槍にて取れども、老婆はその遺ひ難きが故、犬に取らすとかや、折能くも今朝は鱒(イジャニ)、鯡(トクジ)、等多く溯りし故是を二見せしが、犬は川岸に踞居に鱒川下より上り来り浅瀬に至るや、犬

右のエピソードは、松浦武四郎の安政五年(一八五八年)の報文日誌の「東部登加智留子知之誌」でも記載されている。その概略を記すと――

上川では、一人暮らしの老婆でも犬を七、八匹くらい飼育している。その家は、マクンベツという枝川、またメムと言って上流に清水の湧く所があるあたりに作る。その川幅は、一、二間(一・八〜二・六疋)位のもので浅く、鮭が上る時は、鮭の背が半ば見えるばかりの所に住んでいる。

鮭が堀を掘るために浅瀬に上りくる時は、犬がその鮭を見るや飛び入り、背を喰わえ、陸へ持ち来たり置き、又川に飛び入り、犬五、六匹で鮭を追い回し取るので、一軒の家で犬を五、六匹も飼う時は、干鮭を百束(二千匹)も取り、また一人暮らしの老婆でも、三十束四十束(六百〜八百匹)位ずつ取るという。

このように、上川は、「鮭の多いこと筆紙の及ぶところではなく、そのため、テシホ、トカチ、ユウベツ、シヨコツ辺のアイヌの人たちは、飢饉の時は、山越えて上川に来て、生計を立て直して、帰郷する者が多かったという。上川は鮭の大産地であった。

(アイヌ語地名研究会幹事) ※毎月第1週号に掲載します